

資料3

高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会(第5回)

H20.12.11

# イタリア古代壁画の修復と保存

青柳正規

# イタリアの保存修復体制

- *Ministero per i Beni e le Attivit Culturali*
  - 保存修復高等研究所(ローマ)
    - *l'Istituto superiore per la conservazione ed il restauro (旧Istituto Centrale per il Restauro)*
  - 硬石工房(フィレンツェ)
    - *Opificio delle pietre dure*
  - 各文化財監督局(考古・美術・建築環境・図書・・・)
    - *Soprintendenze archeologica, artistica .....*



Cesare Brandi と Giovanni Gronchi イタリア大統領  
Mostra sulla Tomba delle Olimpiadi di Tarquinia

# Cesare Brandi の修復理論

- 修復は、芸術作品の潜在的な統一性を回復することを目的とする。ただし、あくまでも芸術作品の経年の痕跡を消すことなく、また、芸術的な偽りや歴史的な捏造を犯すことなく、芸術作品の潜在的な統一性の回復が可能である場合に限られる。

# 保存よりも修復

- 傷んだ状態の壁画、板絵、油絵、彫刻などの美術作品をいかに修復するか、が最大の目的であり課題
- 絵画の場合、剥落部分、褪色部分、劣化部分を周囲の状態良好な部分にあわせて補筆、加筆する。この場合、補筆もしくは加筆した部分は斜線影で行い、補筆もしくは加筆部分であることを識別可能とする
- *restauro invisibile* → *restauro visibile*

# タルクィニアの墓室墓

- 約200基が壁画で装飾されている
- エトルリア時代の墓室墓約3000基のうち壁画で装飾された墓のほとんどがタルクィニアのモンテロツツィ古代墓地に集中している
- チェルベテリの「フランソワの墓」のような例外もある
- 紀元前7世紀末～紀元前2世紀後半
- ルネサンス時代から知られていた

# タルクィニアの墓室墓

- 初期の壁画は小アジアから移住してきたギリシア人陶器画家が描く
- 紀元前5世紀中ごろまでギリシア絵画の影響が濃厚
- したがって、ほとんど現存しないギリシア絵画の資料としても貴重
- しかし、エトルリア美術の資料としての方がより重要

# タルクィニアの墓室墓 保存修復

- 19世紀から劣化が指摘され、保存修復の必要性が問われる
- ストラッポの可能性も追求されたが、湿度があるため膠は使用できなかった
- このため、水彩画による記録保存が主流
- 20世紀に入り、加筆・補筆による修復作業が施される。ただし”*resutauro invisibile*”
- 1939年、Istituto Centrale di Restauroが設立
- 上記加筆・補筆部分の撤去



# タルクィニアの墓室墓 保存修復

- 第二次世界大戦後、中央修復研究所での科学的修復法の進捗
- 湿気にも対処できる化学的糊（白色ゴム、アクリル製糊・・・）が資料可能となる
- 1950年代、棺台の墓などの壁画がストラッポされ、博物館内に墓室として再現
- 乾燥した採色層の発色性が問題となる
- このためストラッポ法は中止となる

# タルクィニアの墓室墓 現在の課題

- 最大の問題は見学者・修復家の入室による温度・湿度の変化
- 凝灰岩からの湿気が彩色漆喰層の表面で水滴となり、水滴中の塩類が彩色層表面で結晶
- 結晶化の過程で採色層の彩色を圧迫もしくは剥離
- 初期の修復で使用されたモルタルは漆喰より強度があるため、漆喰層の剥離をうながす

# タルクィニアの墓室墓 現在の課題

- 菌類、藻類、バクテリアの繁殖
- 昆虫等の小動物の排泄物の付着・堆積
- 植物の毛根の侵入
- 異常気象による泥流の混入
- 自動車の振動

# タルクィニアの墓室墓 現在の修復保存

- 温度と湿度を可能な限り安定化
- 見学者数の制限
- 墓室を外気および見学者と遮断
- 照明器具の温度管理
- 墓室内環境の記録
- 通気と温度管理

# タルクィニアの墓室墓 現在の修復保存

- 保存修復に使用する薬剤等はできるだけ化学的、物理的、美的に原材料と近いものとし、可逆性を確保
- 修復保存の処置をする場合、美術史研究者もしくは考古学者、修復師、保存科学者のチームを構成して検討する

# タルクィニアの墓室墓 現在の修復保存

- 表面の塩類結晶物を除去
- 古い修復で使用されたモルタル類の除去
- 漆喰類をもちいての岩面から剥離している漆喰層の接着
- 剥離した空隙部分には現地の石灰岩を用いた漆喰剤(macco)を塗布して空隙部分の拡大を防止
- 原材料に近い材料を用いての補筆・加筆
- *Restauro visibile*



Cerveteri, Necropoli della Banditaccia

# 墓室を外気および見学者と遮断



Cerveteri, Tomaba dei rilievi



## 剥離部分(凝灰岩の黄色)のある壁画



## モルタルとmaccolによる修復



Tomba dell'Orco



Tarquinia, Tomba di Caccia e pesca



Tarquinia  
Tomba di Caccia e pesca





Tarquinia, Tomba degli Scudi



Cerveteri, Tomba di Francois



Cerveteri, Tomba di Francois



1. Arpi, Tomba della Medusa: Vestibulum und Eingang



Tomba della Medusa From Arpi (Apulia)

82. Paestum, Tomba 123 – Spinazzo = Tomba “Taranto”: Eingangswand links



Paestum  
Tomba 123 Spinazzo  
= Tomba “Taranto”

87. Paestum, Tomba 123 – Spinazzo = Tomba “Taranto”: rechte Wand, rechter Teil



Paestum  
Tomba 123 - Spinazzo =  
Tomba "Taranto": rechte  
Wand, rechter Teil



Paestum  
Tomba 58 - Andriuolo:  
W-Platte mit "ritorno del  
guerriero"





東のアプシス 09.2006















出土壁画の修復作業 09.2006



# 循環型文化と蓄積型文化

- 循環文化[日本文化]
  - 伊勢神宮の式年遷宮を典型とする繰り返しの文化
  - 一定向への発展はないが、しなやかな継続性に優れる
  - ソフトで文化を継承保存
- 蓄積文化[西洋文化]
  - 永久に保存できるモノを造り出そうとする文化
  - 石造文化
  - ハードで文化を継承保存